



## 『心と心を紡ぎ繋ぎ合う、学びと集いの場』 学校と地域を繋ぐ架け橋として

藤山ふれあいセンター 館長 海頭 巖

「私たちの生活の原点は？」と問われると、やはり『家庭』ですね。では「『拠点』は？」と問われると、人それぞれで複数答えられるのではないのでしょうか。例えば『学校、部活動、塾、習い事、サークル、会社、茶話会、ママ友会』など様々なものを挙げられるでしょう。そして、そこで自分らしさを発揮し、能力を高め、個性を磨かれていることと思います。

さて、私の勤めている藤山ふれあいセンターでは、コミ・自治連・社協など地域の各団体の会議等の使用を始め、43の講座が開設され、月に100回以上の学習の場としても使用されています。共通の興味・関心をもたれた方たちが集い、新たな自分との出会いや発見、また可能性へチャレンジするなどして、自己実現に繋げておられます。地域住民の皆さんが『心と心を紡ぎ繋ぎ合う、学びと集いの場』として機能する藤山ふれあいセンターを目指して日々活動しています。

その一つの例を紹介しましょう。高齢者を対象にした『スマホ教室』を開催しました。スマホの使い方を熟知しているバリバリの現役ユーザーである藤山中学校と香川高校の生徒を講師に迎え、受講者にマンツーマンで使い方を教えてもらいました。受講者のスマホ使用歴や習熟度も様々でしたが、講師の生徒たちは丁寧かつわかりやすく説明していました。

○受講者の感想より：『SNSがよく理解できていませんでしたが、付きっきりで分からない所を教えて頂き、有難

かったです。お若いのに、ずば抜けたスマホの知識に驚きました。理解度の悪い年寄りに優しく教えて頂き、感謝です。』

○中学生の感想より：『おばあちゃんたちに教えることで、自分もよく分かった。とても難しかったです。いろんなお話ができて、楽しかったです。伝わってくると嬉しいです。』

○高校生の感想より：『このようなボランティア活動に参加するのは初めての体験でしたが、地域の方も優しく接して下さったので、楽しく時間を過ごすことができました。教えたときにとてもうれしそうに何度もやり方を確認して下さっていて、今まで見ることができなかった写真や動画を見たり、通話の仕方を覚えたりして、何回もありがとうございました。嬉しかったです。二回目があればぜひ参加したいです。』

これからも、地域と学校とが協働して活動でき、学びへの参加のきっかけづくりができるよう、地域と学校を繋ぐ架け橋になれたらと思っています。



## イベントのお知らせ

### 特別サロン (2) 地産地消シリーズ2

・日時：2022年10月15日 (土) 午後2時～4時

・場所：宇部市立図書館2階講座室

(宇部市琴芝町1丁目1-33)

講演：安溪貴子さん (山口県立大学非常勤講師)

「地域で自給する・種子から育てる～アフリカで学んだ  
智恵を日本で生かす」

話題提供：

野村勝義さん (野村農園)

「有機ネット山口西部の活動について」

・主催：うべ環境コミュニティー

・申込方法：

氏名、電話番号、対面・オンラインの別を、まちなか環境学習館 (メールや電話、右記) に申し込んでください。

・メ切：10月11日 (火)

・資料代：200円

(高校生以下とオンラインは無料)



安溪さんの手前味噌づくり

“地産地消”を考えるシリーズとして、生活の仕方そのものにも影響したコンゴ (アフリカ) での体験に立ち返り、安溪先生より生態学や文化人類学まで広い視野から種子の大切さや農業の在り方、伝統的な料理法などを語っていただきます。

また野村さんからは、実際に小野田で自然農法を実践されている体験について、話していただきます。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



HomePage



facebook



twitter



NPO 法人うべ環境コミュニティー

## 「第三次宇部市環境基本計画」に基づいた 今後の環境政策の推進

宇部市環境政策課 課長 村岡和弘

私たちを取り巻く環境は、地球温暖化を主な要因とした異常気象による大規模災害の頻発や生態系の崩壊、プラスチック廃棄物の流出による海洋汚染など、様々な問題が地球規模で顕在化しています。

このような地球環境問題の解決に当たり、世界中でその対策の必要性が急務だと叫ばれています。日本においても、国の新たな環境政策が動き出していますが、その政策を推進する上で、いかに各地域でその特性に応じた取組を実行できるかが鍵となります。

そのような中、本市においては、令和4年3月に「第三次宇部市環境基本計画」を策定し、地域脱炭素に向けた今後10年間の方向性と施策を定めたところです。

基本計画では施策の基本目標として、「地球環境に配慮した暮らしを实践するまち」、「良好な生活環境を守り安心して生活できるまち」、「豊かな自然とその恵みを未来に引き継ぐまち」、「限りある資源を有効利用するまち」、「産官学界が連携し環境配慮社会を構築するまち」の5つを掲げています。また、それ

ぞれの基本目標に沿って、施策の柱及び基本施策、目標値を定めています。

主な施策として、自家消費型太陽光発電設備の導入をはじめとした再生可能エネルギーの活用、高効率設備の導入等による省エネルギーの推進、大気・水・騒音など生活環境の保全、自然とのふれあい創出等による生物多様性の保全、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進によるごみの減量化、各成長段階での環境学習・教育の実践による人材の育成などが挙げられます。

また、SDGs未来都市として、各施策がどのゴールと関連性があるかを明確にし、環境政策の推進により、持続可能なまちづくりを目指すこととしています。以上の施策を展開することにより、地域脱炭素に向けた民生部門の取組を加速化し、地球温暖化対策を進めていきたいと思っておりますので、市民・事業者の皆様方の御協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



## 若い世代からの発信

### 地域猫活動イベント開催決定！！

宇部高等学校 探究科生物班

地域猫活動とは飼い主のいないねこへTNR（捕獲し、不妊去勢手術を行い、元の場所に返す）を実施することで繁殖を防止し、「地域猫」として一代限りの命を全うさせ、地域ぐるみでねこ共生しながら見守っていく活動です。

私たち宇部高校探究科生物班は、この地域猫活動を通してSDGsの11番の目標である「住み続けられるまちづくりを」というテーマを中心に研究して、より住みやすい街を実現するために、ねこに関する多くの課題を地域の方々と乗り越えていきたいと思っております。

その中でも私たちは課題の一つである「糞尿における衛生問題」に着目しました。銀天街周辺を歩いていると、いたるところにフンが散乱しています。フンがおったりフンを目にしただけでも良い気分はしないと思います。そこで私たちは「トイレの設置・管理」をして、どのようなトイレがねこにとってフンをしやすいかを実験しています。

現在の実験の例として、安価に買うことができる砂と土について比較したところ、フンの量は土のほうが多いという結果が得られました。これらの実験の結果から、現時点ではトイレの素材が乾燥していることが重要なのではないかと考えています。屋外ではトイレに簡易的なカバー（写真）を付けることも有効という結果も得られています。

また、このような実験をしている中、トイレの設置

場所がないということに気づきました。フン害を軽減し、より住みやすい街にしていくためには、地域の方々に協力していただく前にトイレの有効性を「知ってもらう」ことも必要だと考えました。

そこで実験に加えて「イベントの開催」という方法でフン害問題にアプローチすることにしました。その名も「地域猫でつながるフェスタ」です。私たちの探究活動の発表はもちろんですが、いろいろな団体さんに出店、展示してもらい、楽しみながら地域猫活動を知ってもらえたらいいなという思いでイベントの開催を決めました。

10月22日（土）10時～14時に銀天街そばのしばふ広場にて開催予定です。一人でも多くの人にこの活動を知っていただくことで、もっといい街をつくり上げる力になればと思っています。少しの間でもぜひ見に来ていただくと嬉しいです。



ネコ用トイレに  
雨よけカバー

